

食料自給率向上に向けた技術開発・普及の紹介

農林総合技術センターでは、食料自給率向上に向けた技術開発を推進するとともに、現地実証型の研究を積極的に行い、研究成果の迅速な普及に取り組んでいます。

～行政・研究・普及が連携した専門技術会議を開催～

技術指導室では、集落営農法人の育成や産地づくりなどを一体的に推進するため、県農林水産部関係課・試験研究・農林事務所との連携を一層強化し、県域での施策展開と現地課題解決を図る専門技術会議を企画・運営しています。

<主要な取組>

①集落営農組織の法人化促進に向け、各農林事務所が設定した重点集落での具体的な実践方策を検討しています。また、設立された特定農業法人の経営確立と複合化・多角化の推進に向け、県集落営農法人連携協議会等と連携して、集中的経営診断等に取り組んでいます。

②食料自給率の向上に向け、野菜産地の新たな担い手育成、果樹や花き産地の低コスト・省力化、生産安定対策等の検討を行っています。また、産地の核となる集落営農法人等への導入を促進するため、試験研究や現地実証等の成果をとりまとめたタマネギ推進資料の作成やモデル法人での機械化実証等を支援しています。



③来年度から本格実施される戸別所得補償制度に対応した農家所得確保のため、試験研究で確立した小麦「ニシノカオリ」及び大豆の省力・多収化や品質安定化対策の指導、現地実証等を通じた早急な技術普及に取り組んでいます。また、水田のフル活用と飼料自給率の向上を目指し、耕畜が一層連携した飼料用米の生産利用拡大の取組が加速化するよう、プロジェクトチームで現地実証等を行っています。



食料自給率向上に向けた取組み

「山口らしい法人経営の発展・安定化プロジェクト」 ー所得拡大に向けた「アスパラガス」の栽培はじまる！ー

農林総合技術センターでは昨年度から、本県初の社会実験方式によるプロジェクト「山口らしい法人経営の発展・安定化プロジェクト研究」に取り組んでいます。このプロジェクトは、現地の法人において新技術を複合的に実証研究し、自給率向上の核となるモデル法人を育成するものです。

本プロジェクトの一環として、今年度から対象法人の1つである（農）植柳ファーム（美祢市東厚保）において、アスパラガスの生産を開始しました。本格的な収穫は来年度からになりますが、将来的には30aにまで規模を拡大し、約600万円の売上増を目指しています。

農林総合技術センターでは、農林事務所、農協等の関係機関との連携のもと、早期の生産安定に向けた支援を行っていくこととしています。



施設アスパラガスの栽培風景

たまねぎ栽培の機械化や大規模栽培技術について

農林総合技術センターでは、「たまねぎ等の搬出作業改善に向けた省力機械化体系の確立」として、平成14年～18年度に研究を実施しました。本研究では、たまねぎの拾い上げ及び搬出における労働負担の軽減や、作業時間の短縮について実証を行い、平成20年に「たまねぎ栽培の省力機械化マニュアル」にまとめました。

本マニュアルは、平成17年に作成した「たまねぎベンチ育苗マニュアル」と合わせ、たまねぎの機械化や大規模栽培を行う上での指針となっています。



飼料用米で安全・安心！飼料自給率アップ！！ 「飼料用米の生産利用技術の確立」

農林総合技術センターでは、安全な国産穀物を利用した配合飼料の自給率向上対策として「飼料用米」に着目し、平成21年度から「飼料用米の生産利用技術の確立」プロジェクトに取り組んでいます。

農業技術部、畜産技術部及びセンターの経営や加工部門など、飼料用米の栽培と利用に関わるスタッフがー丸となって、多収品種の選定、低コスト栽培技術や家畜への給与技術の確立及び飼料用米の供給・給与システムの構築に向けて研究を進めています。



シタケ害虫のLED誘引捕虫器開発 ～コードレスタイプなのでどこでも設置することが可能に～

林業技術部は、「キノコバエの生態と防除」について森林総合研究所、徳島県、群馬県、千葉県、みのる産業(株)、カモ井加工紙(株)との共同研究で、LEDを使った誘引捕虫器を開発しました。

菌床シタケ栽培施設では、シタケ発生処理や菌床管理等のため、定期的に散水を実施します。そのため、従来の誘引捕虫器は水が掛かからず、かつ、電源が確保できる所に設置しなければならず、使用場所が限られていました。本研究で開発した誘引捕虫器は、防滴仕様のコードレスタイプなので、どこでも設置することができます。

本捕虫器は、光(LED)とキノコバエ等が好む臭いでおびき寄せ、粘着シートで捕殺します。また、粘着シートは、従来のものでは捕殺困難であった菌床シタケ害虫が、捕殺できるよう改良してあります。この捕虫器を利用することで、菌床栽培施設で近年問題になっているナガマドキノコバエ（ハエ目）やムラサキアツバ（チョウ目）が捕殺できるようになりました。

※LED：発光ダイオード



商品化したLED誘引捕虫器



ナガマドキノコバエ



ムラサキアツバ

近年、問題になっている菌床シタケ害虫

探そう！次世代の農業と将来の自分

～山口県立農業大学校（農業研修部）の紹介～

農業大学校は、「身をもって学ぶ実践教育」「全寮制教育」「マンツーマン教育」の3つの柱のもと、農業に取り組もうとするあなたの夢を応援する学校です。

防府市の大平山の裾野に広がる広大な農地を使って、園芸学科（野菜・花き・果樹の3コース）と畜産学科（酪農・肉用牛の2コース）で、今年度は1年生34名、2年生31名の学生が農業のプロを目指し、日夜、頑張っています！

21年度は7割の卒業生が就農し、特に農業法人への就業者が増えています。

23年度の入学生を下表のとおり募集します。また、10月24日（日）にオープンキャンパスを実施しますので、是非ご参加ください。



23年度学生募集中

区分	願書受付期間	農林事務所 願書締切日	入学試験日
推薦入試	10月1日	10月15日	11月10日
一般入試	一次募集	11月12日	11月26日
	二次募集	12月24日	1月11日
		1月11日	1月26日

学校教育法に基づく専修学校であり、卒業生は「専門士」の称号が与えられ、「短大2卒」の学歴扱いとなります。

【お問合せ先】山口県立農業大学校 教務課 TEL (0835) 38-0510

詳しくはインターネットでこちらから

山口県立農業大学校

検索

試験研究のトピック紹介

長期安定出荷を可能とする「新はなっこりー」
『はなっこりーME』、『はなっこりーL』登場！

平成11年に品種登録された「はなっこりー」は、県のオリジナル野菜として生産されていますが、寒さに弱いため、厳寒期に生産量が減少し、供給不足となることもありました。

このため、農林総合技術センターでは、寒さに強い「はなっこりーME（仮称）」、「はなっこりーL（仮称）」を新たに育成し、平成22年8月に品種登録を申請しました。

これまでの「はなっこりー」は早生品種で、9月～12月の収穫に適します。「ME」は中早生品種で1～2月の収穫に、「L」は晩生品種で、3～5月の収穫に適します。また、両品種ともに、味や栄養価はこれまでの「はなっこりー」と同じです。

「新はなっこりー」は平成22年の冬から試作販売される予定となっています。

県では今後、これまでの「はなっこりー」と「ME」、「L」の3品種を組み合わせ、9月～5月までの長期にわたって、安定した生産・出荷体系を構築し、「はなっこりー」の生産振興を進めていくこととしています。



「はなっこりーME（仮称）」（登録申請中）



「はなっこりーL（仮称）」（登録申請中）

山口県オリジナルユリ「プチエトワール」が
「ジャパンフラワーセレクション2010-2011」入賞！
新花コンテスト「(社)園芸文化協会賞」受賞！

農林総合技術センターが育成した小輪タイプのユリ「プチエトワール」が、「ジャパンフラワーセレクション2010-2011」切花部門で、入賞しました。

— 昨年の「プチソレイユ」、昨年の「プチルナ」、「プチロゼ」に続き3年連続での受賞となります。

また、日本フラワー&ガーデンショウ「新花コンテスト」で、「(社)園芸文化協会賞」を受賞しました。本コンテストでの受賞は、当センターの育成品種としては初となります。

本品種は、花の大きさが10cm程度と小さく、花色は光沢のあるレモン色で、アレンジメントや花束など様々な用途に使えます。また、草姿が小さくハウスを効率的に利用できます。

「プチエトワール」は、現在下関市や周南市、柳井市で栽培が開始されており、来春、約5,000本の出荷を見込んでいます。山口県では今後、本品種をはじめとした「プチシリーズ」の球根及び切り花の生産振興を進めていくこととしています。



小輪タイプのユリ「プチエトワール」



「プチエトワール」を使ったアレンジメント

<山口県農林総合技術センター 企画情報室>

〒753-0214 山口市大内御堀1419 TEL(083)927-7011 FAX(083)927-4386

URL http://www.nrs.pref.yamaguchi.lg.jp/hp_open/a172010/00000001/index.html

※ 皆さまからの御意見、御要望をお待ちしております。